

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名 NPO法人 沖縄国際人材支援センター

1. 事業名称

・沖縄県内在住「生活者としての外国人」のための地域日本語教育実践プログラム

2. 事業の目的

・沖縄県内在住の外国人が、日本語能力の不足によって誤解されたり、不利益を被ることのないよう、日本語力ならびに日本の文化習慣を学べる機会を作ることを通して、周囲の日本人にこうした在住外国人の存在を知らせ、その解決のために日本人が積極的にかかわっていけるような体制を整える。

3. 事業内容の概要

・地域日本語教室の存在を知らせるための講演会や交流会を開き、注意を喚起する。また離島も含めた沖縄県内各地で地域日本語教室を開催していくために、文化庁のカリキュラム案にそったテーマごとに外国人学習者のレベルにあわせた学習教材がインターネットを活用して入手できる仕組みを作り、日本語指導者を希望する日本人が臆することなく日本語教室に参加できるようにする。

4. 事業の実施体制について

・コーディネーター	瀬底あけみ	NPO法人 沖縄国際人材支援センター理事
日本語指導者 作業補助	藤崎 敦	NPO法人 沖縄国際人材支援センター非常勤職員
作業補助 事務担当	仲田 佳世	NPO法人 沖縄国際人材支援センター非常勤職員

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	西宮 翔太	沖縄県知事公室広報交流課 主任
2	上原 徳一郎	那覇市総務部平和交流男女参画課 課長
3	根来 全功	沖縄県国際交流人材育成財団国際交流課 課長
4	大仲 るみ子	NPO法人沖縄NGOセンター 事務局長
5	瀬底 あけみ	所属NPO法人沖縄国際人材支援センター 理事
6	オブザーバー 下地 誠	沖縄県知事公室広報交流課 交流推進監
7		
8		
9		
10		

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年9月24日(木) 10:30-12:00	1時間半	沖縄県庁内会議室	下地誠 西宮翔太 根来全功 上原徳一郎 瀬底あけみ	1. 平成27年度事業概要の説明 2. 平成27年度事業の進捗状況
2	平成27年12月21日(火) 10:30-12:00	1時間半	沖縄県庁内会議室	下地誠 西宮翔太 根来全功 大仲るみ子 瀬底あけみ	1. 平成27年度事業経過報告 2. 平成27年度事業の評価について
3	平成28年3月14日(月) 10:30-11:30	3時間半	沖縄県庁内会議室	下地誠 西宮翔太 根来全功 上原徳一郎 瀬底あけみ	1. 平成27年度事業総括 2. 平成27年度事業の評価について

6. 取組についての報告

取組1：(取組の名称を記載してください)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・①外国人が地域での生活に必要な情報を入手し、日本語を習得する。
- ・②地域の日本人が外国人学習者をサポートして共に学び合う日本語教室を運営する。
- ・③その運営方法を日本人参加者が実践できるようにする。

(2) 取組内容

・「日本語教育の標準的なカリキュラム案」から抜き出した30のテーマに基づき、学習者のレベルに合わせて複数の教材を準備し、日常生活で遭遇するさまざまな疑問を話し合いながら日本語を学んでいく日本語教室。指導者ならびに補助者がレベルごとにグループを作って対応する。

(3) 対象者

・地域在住の外国人、外国人との交流に興味がある日本人

(4) 参加者の総数 77 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 56 人

【出身・国籍別内訳】

中国	3人	インドネシア	0人	
韓国	2人	タイ	0人	・台湾5人 フランス3人 ニュージーランド2人 イギリス2人 イタリア2人
ブラジル	3人	ペルー	2人	・ドイツ2人 香港2人 カンボジア1人 スイス1人
ベトナム	0人	フィリピン	19人	・シンガポール1人 スウェーデン1人 ナイジェリア1人
ネパール	3人	日本	21人	・ニュージーランド1人 カナダ1人 メキシコ1人

(5) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月2日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	19人	自己紹介	スケジュール確認の後、グループに分かれて、「最近どこへいった？」ゲームで互いを紹介する。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 大仲るみ子 福地 利枝子 嘉手苅則 子
2	平成27年9月4日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	19人	自己紹介・家族紹介	自己紹介、家族紹介、それに関わる漢字の学習。	藤崎敦	津波古洋子 新垣 由美 西原智子 金城弘子 嘉手苅 則子 下門礼子
3	平成27年9月9日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	18人	病気	体の名称と症状の言葉を漢字で学び、症状を訴える会話練習をする。	藤崎敦	太田雅子 新垣由 美 西原智子 下 門礼子 嘉手苅則 子
4	平成27年9月11日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	14人	病院	問診票の書き方や病院の用語、診療科目の漢字を学習し、医者とのやりとりの会話練習をする。	藤崎敦	新垣由美 福地利 枝子 西原智子 金城弘子 下門礼 子
5	平成27年9月16日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	15人	薬	薬や処方箋に使われる語句と漢字の学習。用法、用量、飲み方や薬の種別を理解する。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 福地利枝子 下門 礼子
6	平成27年9月18日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	12人	台風	台風情報に出てくる漢字の学習と危険時の注意、避難所について学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苅 則子 津波古洋子 新垣由美 下門礼 子
7	平成27年9月25日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	10人	地震・津波	地震に関連する言葉、漢字を学び、地震について話し合う。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苅 則子 津波古洋子 新垣由美 福地利 枝子 金城弘子

8	平成27年9月30日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	12人	火事・事故	事故にあったときの対応や保険について、また消防車や救急車の呼び方を学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美
9	平成27年10月2日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	13人	防犯	ドロボウの種類や防犯上気をつけるべき点を語句とともに学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 金城弘子
10	平成27年10月7日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	14人	ゴミの分別	実際のゴミの分別表をつかって、漢字の学習とことばの確認をする。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 嘉手苺則子
11	平成27年10月9日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	15人	市役所	市役所に届けるときに必要な住所の漢字を实际書いてみる。各課の業務内容を話し合う。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 金城弘子 関沙緒 利
12	平成27年10月14日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	17人	健康保険・年金	健康保険の仕組みや年金の手続きについて学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 下 門礼子 福地利枝 子 嘉手苺則子 関 沙緒利
13	平成27年10月16日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	19人	税金	高額医療補助など、税金から返ってくる仕組みについて学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 新垣由美 福 地利枝子 下門礼 子 金城弘子 関沙 緒利
14	平成27年10月21日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	13人	運転免許	免許の取得と罰金制度について漢字とともに学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 新垣由美 福地利 枝子 関沙緒利
15	平成27年10月23日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	13人	郵便局	書留やゆうパック、貯金など、郵便局のいろいろなサービスについて学ぶ。	大仲 るみ子	津波古洋子 新垣 由美 福地利枝子 金城弘子
16	平成27年10月28日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	11人	銀行	口座の作り方やATMに書かれている漢字を学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 新垣由美 下門礼 子 関沙緒利
17	平成27年10月30日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	14人	旅行	飛行機チケットやホテルを予約する際の会話と関連する漢字を学習する。	藤崎敦	津波古洋子 嘉手 苺則子 新垣由美 金城弘子
18	平成27年11月4日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	15人	買い物	割引や特売など、セールに関する漢字を学び、実際のチラシを読んでみる。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 新垣由美 大仲る み子 福地利枝子
19	平成27年11月6日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	18人	部屋探し	部屋の間取りや敷金、礼金など住居を探す上で必要な言葉や漢字を学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 下門礼子 関沙 緒利
20	平成27年11月11日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	14人	レストラン	日本独特のオーダーの仕方や接客用語について学ぶ。	藤崎敦	嘉手苺則子 津波 古洋子 関沙緒利
21	平成27年11月13日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	12人	携帯電話	携帯電話の料金やサービス内容などパンフレットをみながら理解する。	藤崎敦	津波古洋子 福地 利枝子 大仲るみ 子 下門礼子 関 沙緒利
22	平成27年11月18日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	8人	ラジオ・テレビ	新聞のテレビ欄をいっしょに読みながら漢字を学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 福地利枝子 下門 礼子
23	平成27年11月20日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	9人	インターネット	フェイスブックの活用方法や各国事情について話し合う。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 福地利枝 子 関沙緒利

24	平成27年11月25日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	12人	沖縄の文化	沖縄の歴史を学び、沖縄の文化がど のように発展してきたかを学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 津波古 洋子 下門礼子
25	平成27年11月27日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	13人	仕事をさがす	求人誌の読み方や仕事の探し方を いっしょに考える。	藤崎敦	大仲るみ子 下門 礼子 関沙緒利
26	平成27年12月2日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	9人	日本の会社	日本の会社の上下関係や同僚との付 き合い方について話し合う。	藤崎敦	嘉手苺則子 津波古 洋子 新垣由美 福 地利枝子 下門礼子 関沙緒利
27	平成27年12月4日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	12人	履歴書の書き方①	漢字の多い履歴書の書き方を例をみ ながら学ぶ。	藤崎敦	嘉手苺則子 津波 古洋子 新垣由美 福地利枝子 下門 礼子
28	平成27年12月9日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	9人	履歴書の書き方②	長所・短所など、苦労しながら実際に 自分の履歴書を作成する。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 新垣由美 津波古洋子 下門 礼子
29	平成27年12月11日 (金) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	11人	面接	面接でのあいさつ、自己紹介、お辞儀 の仕方、マナーなどをDVDをみながら 学ぶ。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 新垣由美 福地 利枝子 金城弘子 下門礼子 関沙緒利
30	平成27年12月16日 (水) 18:30~20:30	2	日本文化経済学 院8番9番教室	10人	最近どこへ行った？	あらためて、グループにわかれて、お 互いの日常についてゲームを通して 話し合う。	藤崎敦	太田雅子 嘉手苺 則子 津波古洋子 新 垣由美 下門礼子 関沙緒利

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第1回 平成27年9月2日】

初日。何人集まるか不安だったが、これまでの受講生やその友だちが続々と集まり、「久しぶり〜」「はじめまして」などいろいろな会話が聞こえる。主催者があいさつし、スケジュールを確認した後、グループに分かれて、最近行った場所を書き出すアクティビティをする。日本語がまだ難しい人も、みんなに助けられて、何とかシートを作成し、ひとりずつ発表しながら会話する。その様子をみながら、こちらもそれぞれのだいたいのレベルとつかむ。みな意欲に燃えて元気よく、これからがたのしみだ。



活動例②

【第6回 平成27年9月18日】

沖縄に身近な台風がテーマなので、会話もはずむ。台風情報でみられる漢字の学習から始めるが、「暴」とか「警」とか画数が多くて難しい漢字がならぶ。それでも読み方を確認して、すこし書いてみる。その後、実際の台風情報にふりがなをつけたものをみんなで読む。また台風時の注意も読み合わせながら、これまでの経験を語り合ったり、避難所を確認したりした。初級の人たちは、台風が来たときの注意がかかれた英文訳いりのチラシをみんなで読み、その後、台風接近の会話の練習をした。



(8) 目標の達成状況・成果

一度でも顔を出した人が56名にのぼり、いろんな国籍の人が集うことができたことは成果である。途中で帰国する人、仕事が決まってこなくなる人もいれば、新たに那覇に来たばかりですという人も毎回のよう訪れ、にぎやかだった。教材もレベルごとにグループを作ったので、それぞれ希望する内容を勉強することができた。事後のアンケートでは、みな受講前より日本語を理解し、生活もしやすくなっていると答えてくれた。満足度も高く、こうした場所の提供の必要性を感じた。

(9) 今後の改善点について

毎回テーマを設定していたが、まずひらがな、カタカナが読めるようになりたいという人もいて、途中から別の内容で学習を進めた。まったくの初歩の人への対処法を考えるべきだと思った。来てまもない人の生活に必要な日本語習得をどのように支援するのか、優先順位など、系統的な検討の必要性を感じた。

取組2: 地域日本語教室のための教材検討会議

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・日本語教室の30回のテーマそれぞれに関する教材をもちより、リンク先を明示した一覧をネット上で公開する。

(2) 取組内容

・これまでの日本語教室では、レベルが多岐にわたる学習者が参加するため、もっと適切な教材を選びたいという声が日本語指導者からあがっている。インターネット上では文化庁の日本語教育コンテンツの総合情報サイト「NEWS」をはじめさまざまなサイトがあるが、なかなかちょうどよいものを選ぶことができない。ある程度予測して指導者補助者みんなで取り組めば準備できるのではないかと考え、①まったく書けない、読めない、話せない来ばかりの人②ひらがなは読めるがカタカナが難しい人③ひらがな・カタカナはできるが、漢字が難しい人④漢字もある程度読めるが、日本についてもっと知りたい人、の4段階にあわせて、「NEWS」等から教材を選んだり、あらたに作成したり、必要なパンフレット類を準備したりする。日本語教室で使用したあと、反省点をもちよって改善を加えたものを、NPO法人 沖縄国際人材支援センターのフェイスブックにアップロードし、許可を受けた人なら、いつでもどこでもだれでも利用できるようにする。

(3) 対象者

・外国人に日本語を教える日本人。

(4) 参加者の総数 12 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・
ブラジル	人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	12人	

(5) 開催時間数(回数) 6 時間 (全 3 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 8月19日(水) 18:30-20:30	2	沖縄国際人材支援センター事務所	7人	教材の集め方と共有の仕方	集める教材の内容の検討とレベルの設定を行う。	瀬底あけみ	藤崎敦
2	平成27年 9月19日(土) 13:30-15:30	2	沖縄国際人材支援センター事務所	5人	教材の検討とインターネットの活用	これまで6回の日本語教室で使用した教材の検討と今後の公開の方向性について話し合う	瀬底あけみ	藤崎敦
3	平成27年 1月15日(金) 18:30-20:30	2	沖縄国際人材支援センター事務所	12人	教材内容の検討	教材をアップしたフェイスブック https://www.facebook.com/groups/IRESCO/ (いっしょに日本語～使える教材集～)をみながら、みんなで検討。	瀬底あけみ	藤崎敦

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第3回 平成28年1月15日】
まず、これまで日本語教室で使用した教材等を見直す。その後、フェイスブックのファイルにアップし、登録した人たちがだれでも閲覧できて、日本語の勉強に活用できるようにするための作業を行うことを決める。



(8) 目標の達成状況・成果

集めた教材は、イレスコのフェイスブックページ<https://www.facebook.com/groups/IRESCO/>(いっしょに日本語～使える教材集～)から閲覧できるようにした。教材の検索もタグをつけているので探しやすい。タブレット端末で印刷しなくても学習者と勉強できるようになればいいと思う。

(9) 今後の改善点について

レベル別の評価がまだ出来ていないので、ローマ字で読めるもの、ルビがついているものなど、ほしい教材がすぐに手に入るような工夫が必要だ。今後運用する中で改善していきたい。また、フェイスブックになじんでいない人にはわかりにくいので、ホームページ上で活用の仕方を案内することになっている。

取組3: 地域日本語教室の存在を広く知らせる交流会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・日本語教室で学んだ受講生が、もっと多くの日本人と交流できる機会とすると同時に、地域の日本人が周囲にいる外国人に気づき理解する場とする。

(2) 取組内容

・30回日本語を学んできた人たちの学習成果を発表し、それぞれの国の歌や踊りなどを紹介したり、クイズを出したり、簡単な言葉を教えたりして交流する。

(3) 対象者

・地域在住外国人と、外国人との交流に興味のある日本人

(4) 参加者の総数 527 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 277 人

【出身・国籍別内訳】

中国	3人	インドネシア	人	バングラデシュ20人 モンゴル4人 スペイン4人 イタリヤ2人 スウェーデン2人 アルゼンチン1人 イギリス1人 イラン1人 オーストラリア1人
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	30人	フィリピン	8人	
ネパール	200人	日本	250人	

(5) 開催時間数(回数) 8 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年 2月7日(日) 9:00-17:00	8	日本文化経済学院	527人	交流	30回勉強してきた学習者が自分の出身国の文化を紹介し、日本人と交流するイベント	瀬底あけみ	藤崎敦 太田雅子 嘉手苺則子 津波古洋子 ネロメリア 仲田佳世 関沙緒利

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【平成27年2月7日】
午前中は、イギリス、イタリア、スペイン、スウェーデン、イラン、フィリピンなどの珍しい料理を1皿100円で試食してもらいながら、日本人との会話を楽しむ。午後2時ごろから、ゲーム大会をする。自分の国の言葉の意味をクイズ形式で答えてもらったり、スウェーデン語で隣の人と挨拶したり、最後は、アルゼンチンタンゴとイランのダンスの簡単なステップを教えてもらって、みんなで輪を作って踊り、楽しい時間をすごした。



(8) 目標の達成状況・成果

アンケートでは、これまであまり知らなかった外国人の知り合いの母国について知ることが出来たという感想が多く、より深く互いを理解する一助になったものと思われる。入場者も多く、毎年楽しみにしてきてくださる方もいるので、今後も継続して開催していきたい。

(9) 今後の改善点について

場所の配置や、少人数の出身国への配慮などが必要。

取組4: 講演会「地域日本語教室」の実践

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・地域日本語教室の存在とその意義を広く県民に知らせる。

(2) 取組内容

・先進地域で日本語教室を担って来られた方をお招きして、その取り組みの実践と課題を聞く。またワークショップ形式でそれぞれが疑問に思っていたり、考えていることを出し合って、沖縄でこれからどのようなことができるか、考えていく。

(3) 対象者

・外国人に日本語を教えている、また教えたい日本人

(4) 参加者の総数 19 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人	・
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	19人	

(5) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 11月7日(土) 14:00-17:00	3	日本文化経済学 院3階	19人	地域日本語教室の実 践	レベルのちがう学習者とどのように日 本語の学習を進めていったらいいの か、考え方の基本を提示してもらう。	山辺真 理子 与那覇 麻子	瀬底あけみ

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【平成27年11月7日】

最初にグループにわかれて、自己紹介ゲームをしてアイスブレイクしたあと、「二頭のロバ」の六枚のイラストを使ってそれぞれストーリーを作るという課題に取り組む。2回取り組むうちに、思わず本音がでたり、自分のもやもやがはっきりしたり、不思議な教材を実体験する。その後山辺講師が、日本語力が十分ではない学習者でも、この活動に取り組めることを実際の例を出して紹介し、教室で使える教材は無尽蔵だということを実感した。そのあと、講師の地元である西東京市の取組を聞き、また川崎の事例も参加者から報告され、沖縄でどのような活動をしていくべきか、与那覇講師から提起があり、講演会終了後も数名残って講師たちに具体的な質問をしたり、本を紹介してもらったりした。



(8) 目標の達成状況・成果

これまで日本語教室に関わってきた人も、まったく初めての人もいたが、講師の紹介するゲーム性の高い学習教材に、みな興味津々で、またワークショップ形式だったので、実際に自分で体験できて有意義だった。

(9) 今後の改善点について

イベントが重なっていたために参加できないという連絡を多数もらった。日程の調整も大切だと思った。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

沖縄県内在住の外国人が、日本語能力の不足によって誤解されたり、不利益を被ることのないよう、日本語力ならびに日本の文化習慣を学べる機会を作ることを通して、周囲の日本人にこうした在住外国人の存在を知らせ、その解決のために日本人が積極的にかかわっていけるような体制を整える。

(2) 目的・目標の達成状況

・30回の日本語教室を開催している中で、学習者もボランティアも、友人等から聞いて参加するというのが今回特に多かった。新たな出会いと、つながりを作ることができて、地域にクラス外国人にとって住みやすい環境を整えていく一歩になった。また、外国人が自分たちの文化を紹介する「まーさん大交流会」は、のびのびと自分たちの歌や踊りを披露したり、自分たちの国のことばを紹介できる数少ない貴重な場で、みないきいきとした笑顔をみせていた。講演会で、こうした取組をささえるために、長く地域日本語教室関わってきた方を講師を招いて、他地域の実践を紹介できたことは、日本人ボランティアやスタッフを育成するために有効だったと考える。このような勉強会は、年1回といわず複数回の開催が必要だと痛感した。

(3) 地域における事業の効果、成果

・県内に住む外国人は個々の家庭に散在しており、なかなか大きな集合体にならないが、気軽に日本人に質問したり、疑問に思っていることを訊ねたりできる場所は必要で、そうした役割を本事業の日本語クラスが果たしていることは大きな成果である。今後も地域で学びたいと考えている外国人が集まる場として定着させていきたい。そのためにも、日本語教室を担う人たちが活動に取り組みやすくなる教材のWEBでの共有や、先進地域の事例を学ぶ講演会を開催したことは、有意義であった。また地域の人たちと交流会でかかわりを持てた意義も大きい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

・大交流会を 日本語学校であるゴレスアカデミー日本文化経済学院と共催で行うことで、日本語クラスだけでない、多くの外国人と触れ合う機会を作れた。また、那覇市の住民登録の窓口で日本語クラスの案内をおいてもらったことで、来て間もない外国人がクラスを訪ねてくることも多く、いろんな外国人とつながりを持つことが出来た。昨年発足した沖縄県国際交流多文化共生連絡会において、本事業の取組を紹介できたことで、那覇市をこえていろんな地域の団体と連携を深めることができた。

(5) 事業実施に当たった周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・新聞の無料広告欄に掲載して、日本人の参加を呼びかけたほか、日本語クラスの開催にあたっては、これまでの受講生が友だちにSNSを使って情報を流してくれた。大交流会においては、日本語学校の学生が地元の新聞社に取材依頼に赴き、記事にしてもらうことができた。

(6) 改善点、今後の課題について

・継続的に日本語クラスを開催していくには、関わる日本人の組織化が必要だ。・受講する外国人については、特に日本へ来て間もない人たちが生活に最低必要な日本語を獲得するためにどのような支援をしていけるのか、指導内容の系統的検討が必要。・受講生のレベルチェックや目標設定など、継続が難しい語学の学習を続けさせる工夫が必要。・外国人の増加が見込まれる現在、どのような取組ができるのか、自治体との協議がもっと必要である。

(7) その他参考資料

- 1.運営委員会 議事録 第1回～3回 6枚
- 2.外部評価表 4枚
- 3.取組1 日本語教室 活動報告書 7枚
- 4.取組1日本語教室 チラシ2種
- 5.受講者アンケート 26枚
- 6.取組2教材検討会議 議事録 第1回～3回 2枚
- 7.取組3大交流会 事業報告 1枚
- 8.取組3大交流会 企画推進委員会 議事録 第1回・第2回 2枚
- 9.取組3 大交流会 チラシ1種(裏表)
- 10.交流会感想シート 27枚
- 11.取組4講演会 実施報告書 1枚
- 12.取組4 講演会 チラシ1種
- 13.講演会感想シート 10枚